

## タイパ時代の隙間時間活用ビジネス

### ◆JR東日本が「駅の診療所」開設を本格展開

最近、時間対効果を表す「タイパ」（タイムパフォーマンスの略）という言葉が広く使われるようになり、隙間時間活用型のビジネスが増えている。

JR東日本は、2023年12月、駅構内での診療所開設を本格展開すると発表した。同社は、22年4月に西国分寺駅ホーム上に開設した診療所が好評だったため、23年12月には阿佐ヶ谷駅と東京駅の改札外に、24年1月には上野駅構内に設置、さらに24年夏には仙台駅の改札内にも開設予定で、今後も増やしていく方針だ。

阿佐ヶ谷駅の診療所では、内科などの診察や健康診断を土日含めて20分程度で受けられる。オンライン診療ブースも設置され、耳鼻科や婦人科などは専門医がオンラインで診療する。いずれの診療所も受付時間内であれば予約なしでも受診可能だが、予約優先となり、スマホで現在の待ち人数や受付状況を確認できる。

### ◆隙間時間で活用できるコンビニジムが急成長

RIZAPグループが、22年7月から展開している24時間型の小型フィットネスジム「chocoZAP（チョコザップ）」が急成長している。隙間時間に気軽に通える「コンビニジム」という新しいコンセプトを打ち出し、月額3,278円の低価格で着替えは不要という手軽さが受けて、23年11月には会員数が100万人を突破した。無人営業なのでスマホで入会手続きを済ませ、専用アプリで鍵を開けて利用する。23年10月からは、歯のセルフ式ホワイトニングやセルフエステ機器なども使えるようにし、女性会員の増加や既存会員の継続率上昇を目指している。店舗数は全国1,160店舗（23年11月時点）あり、会員はどの店舗でも利用できる。

生成AIを駆使した英語学習ツールも増えている。ビジネス英語学習アプリの「Loop English」は、AIを用いた独自のカリキュラム生成により、目的に応じたコンテンツを設定すると、音声付きのロールプレイとクイズが生成される。レッスンは1回5分程度なので隙間時間に学習できる。テレワークの普及で働く場所や時間を調整できるようになり、いままで空白時間とみなされてきた隙間時間を活用するビジネスが、今後も広がっていくと思われる。

【秋元真理子】